# PATAと観光促進協力協定に調印 国際旅行市場活性化のエンジン役に

**JATAは太平洋アジア観光協会（PATA）と観光促進協力協定に調印し、双方のイベントへの積極的な相互参画などを通じて、アジア太平洋地域をはじめとする国際旅行市場の活性化に協働して取り組んでいくことになりました。**

## 双方のイベントへ積極的に参画

JATAと太平洋アジア観光協会（PATA）は4月3日、観光促進協力協定に調印しました。昨年末からの協議に基づき、アジア太平洋地域における観光分野の重要性を高め、観光産業の発展を図るため、双方の力を結集して共同展開することで合意したものです。両者間では、特に、PATAによるツーリズムEXPOジャパンへの参画と同時に、JATAによるPATAのイベントへの積極的な参加も確認されています。

JATAとPATAとの協働による具体的な取り組みとしては、今年度のツーリズムEXPOジャパン期間中の国際観光フォーラムで、PATAのマーティン・クレイグス代表が「成長するアジア市場分析」をテーマに講演し、アイビー・チーPATAアジア局長が同フォーラムで実施されるパネル討論会のモデレーターを務める予定です。

PATAのクレイグス代表は、今回の協定への調印に当たって、「日本は観光産業において重要な国であり、その海外旅行の質の高さが長い間評価されてきました。最近は、インバウンドにおいても日本が注目されてきています。これは、PATAとしても支持すべき動きであり、望ましく持続してほしいトレンドです」とコメントしています。

マーティン・クレイグス
PATA代表

菊間潤吾
JATA会長

これを受けて、JATAの菊間会長も、「アジアは10年後には世界の観光市場の中核を担うことになる見通しで、今回のPATAとの提携を機に、双方が協力して世界の観光にとってのエンジン役を務め、国際旅行市場の活性化に力を尽くしたい」と決意を表明しました。

## 会員ニーズへの対応の向上目指す

JATAとPATAとの間で調印された合意内容は、次の通りです。

**◎目的**

(1)双方の会員ニーズへの対応の向上を目的として、観光関係の諸問題に関する共同活動を協力して実施する

(2)観光分野の役割を高め、アジア太平洋地域における観光産業の更なる振興と発展を強化する

**◎主要共同活動項目**

(1)PATAによるツーリズムEXPOジャパンへの参加を通じた優れた協力関係の継続

(2)国際観光フォーラムにおけるアジア旅行市場分析セッションの継続的な共催

(3)JATAによるPATAプログラムへの積極的な参加

(4)アジア太平洋地域および世界の観光動向と予測データの分析・研究目的のための共有

**◎契約期間**

2014年4月3日～2015年4月2日（双方の合意により更新できる）

### 太平洋アジア観光協会（Pacific Asia Travel Association＝PATA）

PATAは、1951年に創設されたアジア太平洋地域における観光開発を目的とする国際的な非営利団体。会員は、アジア太平洋地域を中心とする世界の90カ国・州・市の観光機関、30の航空会社・空港・クルーズ会社、57の教育機関と数百の観光産業に従事する企業で構成。世界に41の支部があり、数千規模の旅行関係者が加盟。日本支部は1962年に開設され、現在、88の旅行産業団体・企業が加盟している。今年2月に東京で開催された観光円卓会議には、アイビー・チーPATAアジア局長も出席し、日本支部会員が観光産業の直面する課題解決に向けて討議を行った。


研修旅行・報奨旅行は「松山」へ！

松山ならではの『研修プログラム』をご用意しております

詳しくは専用HPへ

研修のラインナップ

① 『坂の上の雲』のまち松山
—明治の松山・人びとの人生に学ぶ—
② 本家「野球拳」で社内を活性化
③ 伊予の和太鼓を打って社内を活性化
④ 道後温泉「いやしとこころざし」巡り
⑤ 正岡子規を知り「やりがい」をさがす

新たな発見・交流・感動

旅の開放感・リフレッシュ

松山 企業研修 検索

※動画による内容紹介もあります

—お問い合わせ先—
松山市役所　観光・国際交流課
企業研修旅行担当
TEL:089-948-6558　e-mail:kanko@city.matsuyama.ehime.jp

# ユニバーサルツーリズムのセミナー開催
## 東京と大阪で25人が参加、高齢者の疑似体験も

ＪＡＴＡ社会貢献委員会・バリアフリー旅行部会は3月4日と14日、東京と大阪で「ユニバーサルツーリズム推進・実践セミナー」を開催しました。

バリアフリー旅行部会は２０１３年度、ユニバーサルツーリズムに関する旅行会社向けの対応マニュアルを改訂しています。

セミナーでは、改訂された業務場面ごとのチェックリストを使いながら、旅行会社がバリアフリー旅行を企画・催行するに当たって留意すべき点を、疾病ごとに解説。超高齢社会を迎えた現在、旅行会社に求められる対応の基本をはじめ、実際に取り組みを進める際のヒントなどについての講義を行いました。

また、参加者に視界を狭めるためのゴーグルをつけてもらい、杖をつきながら空港内を実際に歩くという高齢者疑似体験を実施（写真）。現場での取り組みに向けて、参考にしてもらえる工夫も加えました。

大阪会場では10人、東京会場では15人が集まり、参加者からは「バリアフリー旅行の拡大・強化を進める際に、今日のセミナー内容を社内で周知して取り組んでいきたい」という感想などが寄せられました。

# 「ＪＡＴＡの道プロジェクト」を実施
## 東北復興支援でトレイルコースなど整備

ＪＡＴＡは東北復興支援事業として、環境省が整備する東北地方太平洋岸地域のトレイルコース「みちのく潮風トレイル」を活用し、「ＪＡＴＡの道プロジェクト」を実施します。

このプロジェクトは、東北復興支援活動のセカンドステージとして「新しい東北観光」の実現に向け、東北地方太平洋岸エリアの「自然環境の整備活動」を通じて、「自然景観の復興」と「生活文化の再生と向上」に取り組むものです。

「みちのく潮風トレイル」は、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの約７００キロに及ぶ長距離自然歩道で、復興のシンボルとして整備されるトレイルコースを通じて、人と人との交流が生まれ、地域が活性化することを目指しています。

ＪＡＴＡでは今年4月から、東日本大震災の発生後10年となる２０２１年3月までの7年間にわたり、「ＪＡＴＡの道プロジェクト」として、様々な活動を実施する予定です。

初年度となる２０１４年度の活動内容は、次の通り。

実施日：平成26年10月下旬の週末（1泊2日）／実施箇所：青森県八戸市区間（鮫駅～大久喜駅の約８．６キロ［予定］）／活動内容：環境省「グリーン復興プロジェクト」と連携（①みちのく潮風トレイルルートの一部の区間の整備や清掃活動、ウオークイベント②活動区間における道標［マイルポスト］の設置）／他団体との連携：日本エコツーリズム協会、山岳関係諸団体などを予定／参加者：ＪＡＴＡ会員会社の社員（関係団体の参加も可）50人以上

# ３都市４会場で新人社員基礎研修を実施
## 昨年を上回る１５６人が旅行業法と旅行業約款を学ぶ

ＪＡＴＡは4月14日から17日まで、東京・仙台・福岡の3都市4会場で「平成26年度新人社員基礎研修」を実施しました。

この研修会は、入社3年未満の社員を対象に、旅行業法の基本と旅行者との契約のベースとなる旅行業約款を正しく理解してもらうためのもので、昨年度からスタートしました。

研修内容は、「新人社員に必要な旅行業法の基本を学習する」「旅行契約の基本知識である旅行業約款の考え方を学習する」となっています。

参加者らからは「旅行業法や約款を分かりやすく説明してもらい、役だった」という声が数多く聞かれました。

今年度の研修への参加者数は、次の通りです。

4月14日（月）東京Ａ会場＝56人／4月15日（火）仙台会場＝8人／4月16日（水）福岡会場＝30人／4月17日（木）東京Ｂ会場＝62人（※上記以外に、ＪＡＴＡ地方事務局でも同様の研修会を実施しています）